

# 中信

## 天蚕のふんで 自然な色合い



天蚕の幼虫のふんを原料に染め物に挑戦した参加者たち

### 安曇野シルク使い親子ら染色体験

天蚕（ヤマムカ）の幼虫のふんを活用してシルクを染める体験会が14日、安曇野市穂高有明で開かれた。天蚕の絹糸は、淡い緑色が特徴。幼虫のふんは餌となるクヌギの葉が凝縮され、煮ると葉草のようなにおいがする。地元の日蚕農家、古田春江さん（71）に教わりながら、親子連れら13人が自然の色合いを楽しんだ。

古田さんは天蚕の絹糸の美しさに引かれ、千葉県から移住して養蚕を始めて15年になる。天蚕のふんは嫌な臭いはなく、古田さんは「ヤマムカガの命を頂いて使うことが出来る繭に対し、ふんは生きている時に作るすてきな贈り物。何とか活用したいと思った」と話す。数年前にふんを原料とした染め物の深い色に魅了され、今年、染色に挑戦。体験会を初めて企画した。

この日は古田さんが持参した幼虫のふんを煮出し、シルク地を浸し、ミョウバンなどで色を定着させて染め上げた。祖母と参加した塩尻市丘中学校1年の松本真陽さん（12）は、幼い頃から虫が好きで、今春からは自宅で天蚕を飼っている。「ふんは踏むと痛いほど硬い」。深い緑がかかった茶色に染め上がり「結構いい色。これからの季節にちょうどいいかも」と話した。